

---

# 私の影 今の親に言いたいこと！

するめっ子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

私の影 今の親に言いたいこと！

### 【Nコード】

N7658E

### 【作者名】

するめっ子

### 【あらすじ】

処女作品ですが、少しグチャグチャな文章になってしまいました（^^^^・優しく見守ってください！それと、この作品はみなさんに考えてほしいと思って書かせてもらいました！

(前書き)

よろしくおねがいます！

「ねえママ。」

ひとりの女の子が言いました。

「なに？」

それにこの子のママが返しました。

「影って、なんで私についてるの？」

それを聞いて、ママは軽く微笑んで言いました。

「うふふ、それはねえ、生きてる証拠よ。ミナがちゃんと生きている証拠。」

ミナと呼ばれるこの女の子は、南という名前です。

「生きてる？影も生きてるの？」

ママは優しい顔で言いました。

「そうね、もしかしたら生きてるかもね。」

ミナはキラキラ輝かせた目で言いました。

「ね、じゃあ大きく跳んだら影さんどっかいつちゃうの？」

ママは言いました。

「あーそうかもね！影さんどこかいつちゃうかもねえ！」

ミナは言いました。

「ほんとう！？わあ！」

ぴよんぴよんと体いっぱい使ってジャンプしました。

「うふふ。」

その光景を微笑ましい様子でママは見ていました。

すると、パパがやってきました。

「ミナ！こっちこい！」

パパは何か持っていました。

「何それ？」

パパはニコツと笑って言いました。

「縄跳び！」

それはパパがゴムをつなげて、手作りした縄跳びでした。

「こつやつて跳ぶんだよ。」

パパはビュンビュン音をさせながら、ピョンピョンと跳んでいました。

「わあ！高い！！」

ミナは喜びました。

「私も！！私も！！」

しかし、ミナはへるへろつと縄を回すだけで、全然跳べませんでした。

「なんで？」

一生懸命頑張った。

でもできなかった。

次第にイライラしてきたミナは言いました。

「もういいよ」

ミナは手作り縄跳びを投げて、ママの下へ歩きました。

すると、ママは怒った表情で言いました。

「こら！ミナ！パパがミナのために作ってくれたものになにしてるの！」

ママはすごい怖かった。

「だ、だって跳べなかつたんだもん」

「だってじゃないです！そういうことをしちゃいけません！！」

ミナは涙ながらいました。

「ご、ごめんなさい。」

すると、ママの表情は段々緩くなり。

「本当に分かった？」

「うん・・・」

ママはニコツと笑いました。

「もうしちゃだめだよ？ほら、パパに謝って。」

「ごめんなさい・・・」

「いいよいいよ！さあ、中に入ってお昼寝でもしよう！疲れたよな

あ？ミナも？」

「うん！！」

「あっははは、ミナはまだまだ元気だなあ！！」

実は、この様子は私の幼少期のものを使いました。ミナは偽名です。

今のお母さんお父さんたちは、みんなほとんど子どもにきついです。なんでもつと言い方をかんがえられないのかしら？

たとえば、私この前友達とファミレスに行ったのですが・・・。

私たちの席の、3つぐらい横の席に、親子連れがいたのです。

またそれはそれはかわいらしい、それでいてとてもやんちゃな男の子が一人と、ご両親。

それで、私たちもいろいろ話して30分ぐらいして、さて帰ろうかと、身支度してたんですが、その時でした。

「大輔！！（偽名）　なんで呼び鈴押すの！！用も無いときに押したらいけない！！」

ピタツと静寂。

私が振り向いたそれと同時に、パチンと大きな音。

「うええええん！！」

思いっきりパパさんが平手打ち。

「ごめんなさいいい、ごめんなさいいい！！」

泣いて謝っている男の子に、パパさん胸倉をつかみ怒鳴りつけ。

これ・・・本当に親子？

確かに用も無しに呼び鈴鳴らすのは、恥だし店員さんにも悪いこと。

でもでも、そこまでしなくても・・・。

そのあとその親子連れはいそいそと会計をすましてていきました。  
私の横を通った男の子。

よく見ると、手の甲、腕などにアザ・・・虐待？

私はそれを見て、怒り奮闘でした。

なんでだろう？

だってまだ善い事悪い事何も分からない2・3歳の男の子。  
それなのに、なんで同じ目線で見えあげられないのかな？  
自分だって昔はやんちゃな子どもだったのに・・・。

あの時、殴らないで怒鳴らないで、ダメってちゃんと真剣に言っ  
てあげる。

「ごめんなさい」って言えたら、もうしない？って約束する。  
笑ってあげる。

こどもって単純なんだよ？

だから、やっちゃいけないことが怒られて分かってくるの。

それを、怒るじゃなくて、怒鳴りつけ殴って・・・それじゃただの  
虐待。

泣いて謝ってる男の子の顔・・・普通じゃありませんでした。  
なんだか、毎日経験してそうなの。

パパ・・・子どもを殴るのはそんなに簡単？  
私はできないなあ・・・男だったら。

だって、自分も子どもも痛いじゃないですか。  
自分の子どもですよ？

愛する息子さんですよ？

それをなんで？

教えてほしいです私は！

若い、ママもそう。

産んだ子どもを捨てる？殺しちゃう？赤ちゃんポスト??

ハッキリ言つて、あなたそれでも女？

確かに、産ませた男も悪いかもしれない。断定していませんよ？

少し下品ですが、それならそれをしたあなたも悪いんじゃないの？

それをするような自分になつてたからじゃないの？10代少女たち

！！

「私じゃ育てられない」じゃなくて、少し頑張つて。

産んじやつたら、しょうがないんだよ。

自分の子なんだから、責任持つて育てるんだよ。

中高生で妊娠しちやつたら、親に相談するの。しなきゃだめなの。

怖くても恥ずかしくてもめんどくさくてもだるくても！！

それが、親としての責任よ！

そして最後に、甘すぎママ！！

同じく友達と電車で遊びに行く途中。

私たちの前の席で、小さい子どもたちがギャーギャー。

それで親はそれを見て軽く微笑む。

ちよっと待ってそれで終わり？

怒らないの？

それと、レストランで。

「わーいわーい」

子どもが走り回り。

それが30分間……。

それを言わない私も悪いです！

けど、それを注意できないのはもっと悪い事！！

私はそういうことを注意できる親になりたい。

昔は、そういう親がたくさんいました。

どうか、みなさんも良い親になってくださいね！

少し話がそれましたが、コレからもよろしく願いしますね！

(後書き)

どうでしょう・・・？

すごい書き終わった後、恥ずかしい思いでいっぱいでした！  
でも、本当に考えてほしいですね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7658e/>

---

私の影 今の親に言いたいこと！

2010年11月14日03時05分発行